

再々評価調書

事業名	二級河川松尾川 河川改修事業				
担当部署	都市整備部 河川室 河川整備課 改良グループ(連絡先 06 - 6944 - 9297)				
事業箇所	和泉市箕形町地先～和泉市春木町地先				
再々評価理由	再評価後5年を経過した時点で継続中				
事業概要	目的	松尾川流域では、流域内の市街化が著しく進み、上流部ではテクノステージ和泉(和泉コスモポリス)等の開発が行われていることから、概ね100年に1度発生する大雨が降った場合に発生する洪水を安全に流下させ、安全・安心で豊かな生活環境を築くために河川改修事業を進める。			
	内容	改修延長：L=約4.1km 目標流量：130m ³ /s(1/100年確率 時間雨量86.9mm) 護岸工：約4.1km、道路橋：4橋、農道橋：3橋、歩道橋：1橋			
	事業費	全体事業費約87億円(約69億円) うち投資事業費約67億円(約46億円) (内訳)調査費約3億円(約3億円) (内訳)調査費約3億円(約2億円) 工事費約35億円(約25億円) 工事費約24億円(約13億円) 用地費約49億円(約41億円) 用地費約40億円(約31億円)			
	()内の数値は前回評価時点のもの	【事業費の変動理由】 用地費は事業箇所周辺の宅地化の進展に伴い約8億円増加。 工事費は「ふるさとの川整備事業」の実施に伴う護岸のグレードアップなどにより約10億円増加。	【工事費の内訳】 護岸工 約27.5億円(約17.5億円) 道路橋 約4.0億円(約4.0億円) 農道橋 約3.0億円(約3.0億円) 歩道橋 約0.5億円(約0.5億円)		
	事業費の変動要因	【他事業者との協議状況】府・市道橋梁架替えについては、橋梁管理者と適宜協議を実施。 【再評価時に予測した事業費変動要因の状況】特になし 【計画変更の予定】事業費変更については国と協議済み。			
	維持管理費	約44百万円/年(実績等に基づく算定)			
	上位計画	大津川水系河川整備基本方針[H12.12] 大津川水系河川整備計画[H13.2] 大阪府都市基盤整備中期計画(案)改定版[H17.3]			
	関連事業	なし			
事業の進捗状況	経過	事前評価時点(評価なし)	再評価時点(H16)	再々評価時点(H21)	分析
	事業採択年度	H7年	H7年	H7年	
	事業着工年度	H7年	H7年	H7年	
	完成予定年度	H27年	H27年	H27年	
進捗状況		用地：81% <4.8ha / 5.9ha> 工事：54% 整備済延長 約0.9km(22%)	用地：87% <5.1ha / 5.9ha> 工事：69% 整備済延長 約3.2km(78%)	用地買収・工事ともに概ね計画通り進捗している。 改修済箇所から氾濫防止が図れる。	
今後の事業進捗の見通し	河川整備計画に従い、島の岸橋～庄の川橋間の改修を進める。 【新たなコスト縮減や代替案等の可能性】特になし				

事業目的に関する諸状況	事前評価時点	再評価時点	再々評価時点	分析
	想定氾濫区域 141ha 浸水家屋数：1,368戸	想定氾濫区域 141ha 浸水家屋数：2,234戸	想定氾濫区域 141ha 浸水家屋数：2,458戸	市街化により想定氾濫区域内の世帯数が増加している。
事業を巡る社会情勢の変化	・団体交渉による用地所得等により、地元協力のもと順調に事業を推進。 ・ふるさとの川整備区間について地元市と連携した整備を推進。	・概ね順調に事業を実施。	・事業に対する地元の協力・理解を得ながら順調に事業を推進している。	・地元の協力を得ながら、地元市と連携して整備を推進。
地元等の協力体制				

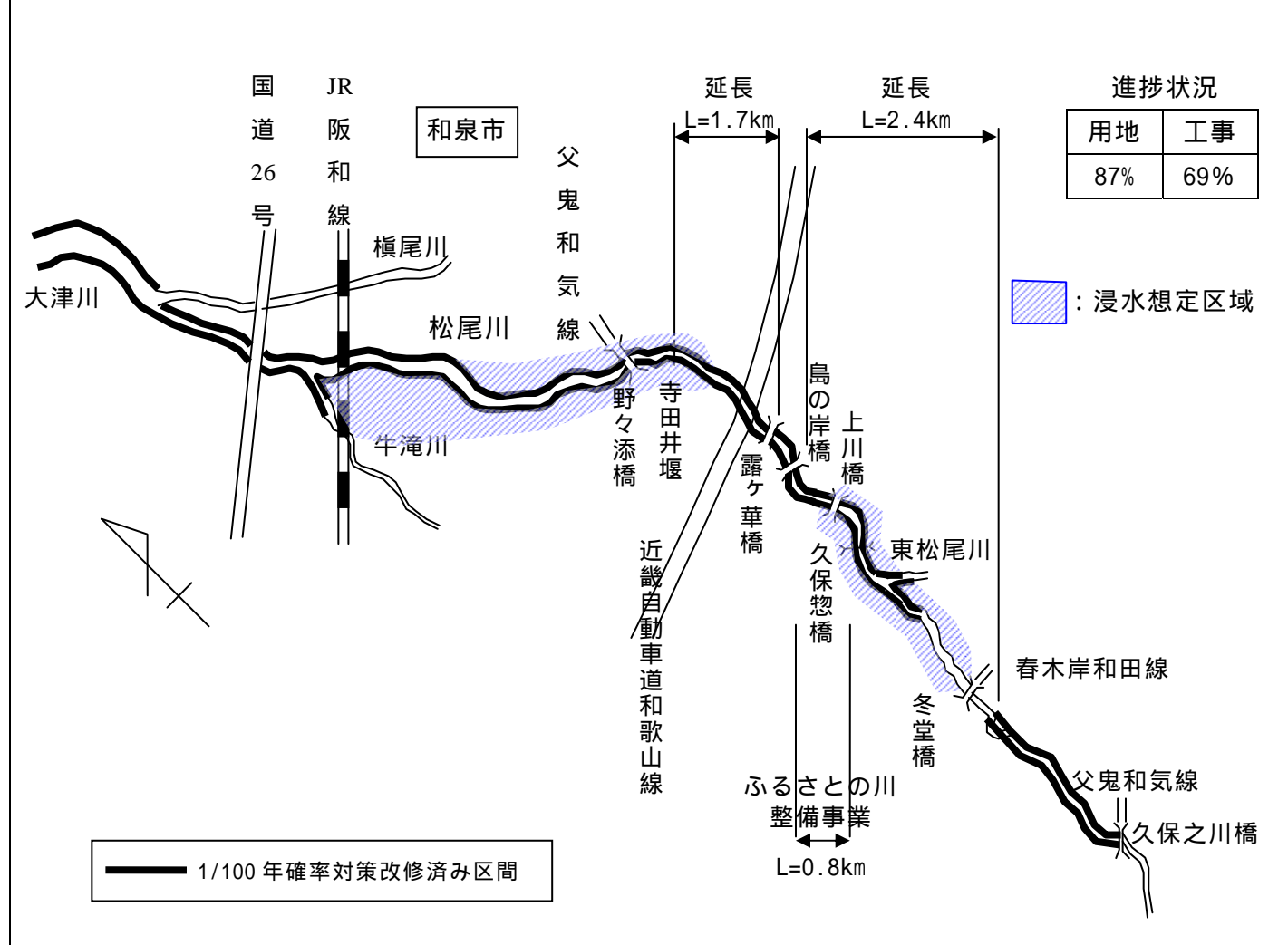
	事前評価時点での状況		再評価時点での状況	再々評価時点での状況(変更点)	分析
		備考			
事業効果の分析	費用便益分析	・下記、代替指標による	<ul style="list-style-type: none"> ・ B / C = 1.21 便益総額 B = 71.9 億円 総費用 C = 59.6 億円 ・費用便益算定の根拠： 治水経済調査マニュアル(案) H12.5 	<ul style="list-style-type: none"> ・ B / C = 1.38 便益総額 B = 161.2 億円 浸水被害軽減便益 161.2 億円 総費用 C = 117.1 億円 建設費 105.1 億円 維持管理費 12.0 億円 ・費用便益算定の根拠： 治水経済調査マニュアル(案) H17.4 	・氾濫区域内の世帯数の増加に伴い、B/Cが増加。
	その他の指標(代替指標)	<ul style="list-style-type: none"> ・ C/B=総事業費/年平均被害軽減額 = 7.7 ・年平均被害軽減額 B=19,250 百万円 ・総事業費 C=148,360 百万円 (大津川・牛滝川・松尾川・槇尾川の河川改修の合計で算出) 	<ul style="list-style-type: none"> ・便益内容：資産被害抑止効果 ・受益者：周辺住民、農業従事者 		
	定性的分析	<ul style="list-style-type: none"> <安全・安心> 浸水被害の軽減(生命や財産) ・河川改修により、治水安全度が向上し、府民の生命・財産を守る。 <活力> 交流拠点の形成(良好な水辺空間) ・河川に近接して民家、久保惣美術館、テクノステージ和泉(和泉コスモポリス)があり、人々の目に触れやすい環境にある。 <快適性> 景観(周辺と調和した水辺景観) ・親水性や自然環境に配慮した改修を行うことにより、視覚的にやすらぎを与える水辺環境を確保するとともに地域のやすらぎの場を提供する。 	・同左	<ul style="list-style-type: none"> <安全・安心> 浸水被害の軽減(生命や財産) ・同左 <活力> 交流拠点の形成(良好な水辺空間) ・同左 ・府民協働(アドトリバー)活動の拠点のシンボルとして羊を飼育している。 <快適性> 景観(周辺と調和した水辺景観) ・同左 	<ul style="list-style-type: none"> <安全・安心> ・河川改修の実施済区間では、治水安全度が向上。 <活力> ・府民協働活動の拠点として利用されている。
	自然環境等への影響と対策	<ul style="list-style-type: none"> (影響) ・河川改修は、極端な湾曲部の解消、現況河道の拡幅及び河床掘削により行われる。工事に伴い、現況植生は失われることになる。また、魚類、底生動物についても瀬及び淵が一時的に失われることとなる。 (対策) ・改修前の環境に近づけるため、自然に配慮した護岸構造とし、魚類の遡上可能な落差工とする。 	・同左	・同左	<ul style="list-style-type: none"> ・河川整備計画に従い、自然環境の保全と回復に配慮した改修を実施。 ・旧川敷を利用し多種多様な動植物が生息するどぼんぼりの整備を行っている。
その他特記すべき事項	本河川改修事業では、地元要望を踏まえ、周辺の景観や地域整備と一体となった河川改修により良好な水辺空間をつくる「ふるさとの川整備事業」の指定を平成4年に国から受けて、隣接する久保惣美術館など近隣の景観と調和の取れた整備を進めている。			・和泉市のハザードマップは作成済みであり、市役所ホームページで公表されている。	
前回評価時の意見具申・府の対応方針の概要	<ul style="list-style-type: none"> 【意見具申】 【府の対応方針】 		<ul style="list-style-type: none"> 【意見具申】本事業については、「事業継続は妥当」と判断する。 【府の対応方針】『事業継続』とする。 	<ul style="list-style-type: none"> (前回評価に対する具体的な取組み) ・引き続き事業の進捗に努める。 	

二級河川松尾川河川改修事業概要図

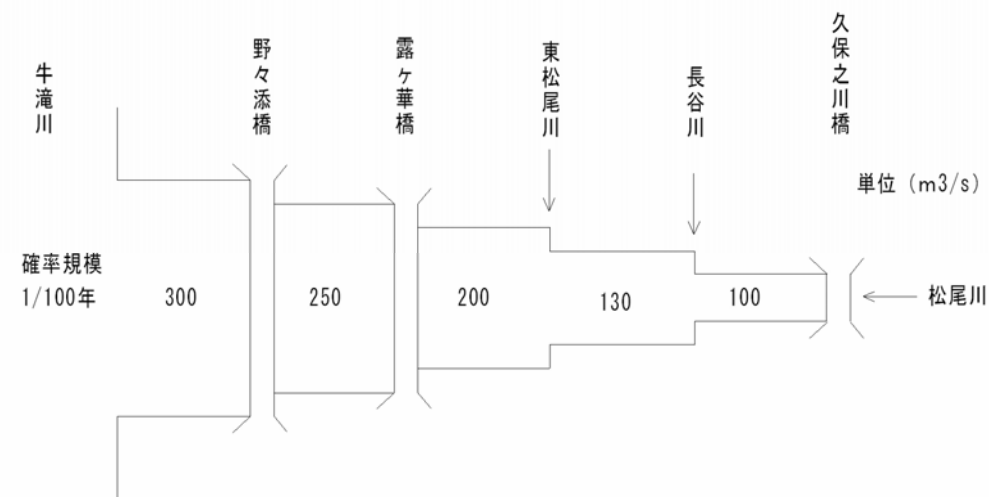
事業箇所図



平面図



流量配分図



標準断面図

